



中央障害者社会参加推進協議会及び同部会合同委員会の模様

中央センター長である阿部一彦日身連会長のおいさつの後、議事が行われ、平成29年度事業報告並びに30年度事業計画などが全会一致で承認されました。議事では、中央センター事業の軸である研修事業(ブロック障害者相談員研修会・福祉大会政策協議など)について、年度ごとに成果を把握し、次年度へ活かしていくいわゆるスパイラルアップの仕組みづくりの重要性などが指摘されました。議事後は、各委員より障

3月14日に東京都障害者福祉会館(東京都港区)において、平成29年度中央障害者社会参加推進協議会及び同部会合同委員会が開催されました。協議会は日身連が運営する、中央センター(中央障害者社会参加推進センター)の運営などに関する事柄を検討するために設置、中央の障害関係25団体のメンバーで構成されています。

中央障害者社会参加推進協議会開催 平成30年度の事業計画など検討

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
デアダंकビル4階
TEL03-3565-3399(代)
FAX03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

講演テーマは「第4次障害者基本計画の考え方」障害者権利条約をふまえて。障害者権利条約と障害者基本計画(第4次)などの国連の障害者領域等における取組やユニバーサルデザイン2020行動計画がめざす共生社会の実現に向けた取組、そして、地域における取組等について講演を行いました。

3月5日、全国社会福祉協議会会議室において、平成29年度第2回全社協・障害関係団体連絡協議会(障連協)セミナーが開催され、阿部一彦会長が講演を行いました。



障連協セミナー
阿部会長講演の模様

国連の障害者領域における取組では、仙台防災枠組(2015-2030)にもふれられ、防災・減災の検討等に関しては、年齢や性別、障害の有無によらずさまざまな立場の人が参加することが重要であり、かつ、障害のある人の参加は、多様なニーズに応えることのできる防災・減災計画の策定とその実施に、

場でも重要だと指摘され、第4次基本計画を通じてめざすべき社会は、あらゆる

場で誰もが活躍できる社会であって、障害者施策が国民の安全や社会経済の進歩につながることに言及しました。

そして、オリパラ東京大会と2020行動計画を絶好の機会と捉えて、地方分権のなかで地域の福祉計画等の策定・実践や福祉サービスの充実とともに、地域生活のための環境の整備充実が必要であること、そして、そうした共生社会の実現には、障害者団体・地域団体・地域住民の連携強化についてそれぞれが意識して実践していきましよう

と参加者へ呼びかけ、満場の拍手のなか、セミナーが閉会しました。

※セミナー資料は、日身連のサイトからダウンロードいただけます。

障連協セミナーで講演 地域の連携強化で共生社会を

害者虐待防止法見直しについての課題や、心のバリアフリーを広げるための取組、とくに学校教育現場に対して各団体が行っている取組事例などが紹介され、活発な意見交換が行われました。

なお、中央センター事業を所管する厚生労働省からは、加藤晴喜障害保健福祉部企画課自立支援振興室室長補佐が参加、委員からの意見や質問に丁寧にお答えいただきました。